

令和2年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議録

【要旨】

日時 令和2年9月15日(火) 19:00~21:40

場所 羽咋市役所 401会議室

出席者

- 会 長：岩城 和男 (羽咋市社会福祉協議会会長)
- 副 会 長：坂野 一男 (羽咋市町会長連合会会長)
- 委 員：藤本 裕子 (羽咋市商工会理事)
- 三井 孝秀 (はくい市観光協会会長)
- 橋本 隆 (株式会社ハクイ村田製作所取締役工場長)
- 武田 広 (はくい農業協同組合総務部長)
- 出村 太一 (日本郵便株式会社羽咋千里浜郵便局長)
- 山辺外志美 (七尾公共職業安定所羽咋出張所所長)
- 岡田 規子 (羽咋市教育委員会教育委員)
- 目ヶ谷澄江 (羽咋市校長会粟ノ保小学校校長)
- 加藤 友彦 (日本政策金融公庫金沢支店支店長)
- 上田 清春 (羽咋地域ライフ・サポートセンター羽咋事務局長)
- 安田 哲朗 (株式会社北國新聞社羽咋総局長)
- 林 修史 (株式会社中日新聞社北陸本社記者)
- 西 敏之 (西司法書士事務所代表)
- 番匠 未樹 (羽咋市青年団協議会会長)
- 河島 佳江 (羽咋市各種女性団体連絡協議会会長)
- 上杉 海紗 (公募委員：学生)
- 欠席委員：西村 弘樹 (羽咋市銀行会 JA はくい貯金課課長)
- 川口 絹子 (NPO 法人わくわくネット・はくい顧問)
- オブザーバー：手持 佳也 (北陸財務局検査監理官)
- 綿木 浩三 (石川県中能登総合事務所所長)
- アドバイザー：高山 純一 (国立大学法人金沢大学名誉教授)
- 平子 紘平 (国立大学法人金沢大学先端科学・社会共創推進機構
特任助教)
- 市側出席者：山辺 芳宣 (羽咋市長) ※あいさつ後、退席
- 若狭 義高 (市参事兼市民福祉部長)
- 川口 哲治 (総務部長兼総務課長)
- 山本 裕一 (総務部次長兼企画財政課長)
- 奥 利明 (市民福祉部次長兼健康福祉課長)

河崎	洋子	(教育次長兼学校教育課長)
金山	幸富	(産業建設部次長兼地域整備課長)
池田	博明	(商工観光課長)
中島	一明	(都市づくり推進室参事兼都市づくり推進室長)
政氏	祥代	(総務課課長補佐)
松田	義人	(企画財政課課長補佐兼がんばる羽咋創生推進室室長補佐)
見附	敦史	(がんばる羽咋創生推進室羽咋創生推進係長)
三星	佑紀	(がんばる羽咋創生推進室羽咋創生推進係主事)
広島	麻鈴	(がんばる羽咋創生推進室羽咋創生推進係主事)

会議傍聴者 : なし

1. 開会

2. 市長あいさつ

令和2年度羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の開催を申し上げたところ、日中のお仕事でお疲れであるにも関わらず、このように大勢の皆さまにご参加賜りまして、心から厚く御礼申し上げる次第であります。

また、皆さま方におかれましては、日頃から本市の発展、活性化に大変温かいご支援とご協力を賜っていることに改めて感謝いたします。

さて、本市では、平成27年度に、国の「日本創生」に呼応して[羽咋創生]を掲げ、「がんばる羽咋創生総合戦略」を策定いたしました。そして、少子高齢化時代に対応した人口減少対策を最重要施策として取り組んでまいりました。

同戦略につきましては、私たち行政だけでなく、このように各分野の代表者の方々が委員となり、毎年、各施策に対し、総合的な評価をさせていただいております。

第1期総合戦略の計画期間が今年3月に終了し、4月からは、第2期総合戦略がスタートしていることに伴いまして、今回、新たに選出された委員の皆さまにご参加を賜った次第であります。

この会議には、金沢大学名誉教授の高山先生、特任助教の平子先生に、1期目に引き続いてアドバイザーとして参加いただいております。さらに、オブザーバーとして北陸財務局検査監理官の手持様、そして、石川県中能登総合事務所長の綿木様にもご参加いただいております。そして、委員の中では、日本政策金融公庫の加藤支店長にもわざわざ金沢からお越しいただき、市内の各分野の代表の方々にもご参加いただきました。改めて、皆さま方

に感謝を申し上げる次第であります。

本日は、特に、平成27年度から令和元年度までに取り組んだ第1期総合戦略の全施策につきまして、皆さま方から評価をいただき、そのご意見を今後の市政運営に反映させる重要な会議となります。

冒頭申し上げましたとおり、総合戦略に基づき、市は人口減少対策を最重要施策に掲げて取り組んでまいりましたが、近年の羽咋市の人口動態を見てみると、人口減少に歯止めがかかっていないというのが本音であります。

戦略の施策の中にも、目標値を達成して、本市の強みとなっているもの、逆に目標値に及ばず、課題となったものが見受けられます。

これらの各施策に対し、どうぞ、ご審議のうえ、適切なるご意見、ご提案をお願い申し上げます。簡単ではありますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願い申し上げます。

3. 委員等の自己紹介、事務局の紹介

(略)

4. 総合戦略会議組織について（正副会長の選任）

事務局一任により、会長に岩城和男委員、副会長に坂野一男委員を選任。

5. 会議の公開及び会議録等の取り扱い等について

(略)

6. 報告事項

(略)

7. 重点審査

※各審査については、委員一人一人の挙手による多数決で、◎：取組内容の深化・発展、○：取組内容の継続、△：取組内容の見直し、×：取組の中止・終了の4つの総合評価の中から一つを選択することで合意。

(1) ■基本的施策名：(1-2-1)『道の駅のと千里浜』を核とした観光交流拠点施設の整備推進と地場産品市場の拡大

□具体的な施策名：『道の駅のと千里浜』の整備・推進

(意見) B 委員：道の駅だけでなく観光協会や宿泊施設等と連携し、羽咋市一丸となってひとを呼ぶ必要があるのではないかと。観光庁からの情報や新しいアイデアを取り入れてやっていくべき。コロナ禍後は海外からもひとを呼べばいいのではないかと考える。

(質疑①) M 委員：KPI (雇用者数で測られている) が委員の方から寄せられている意見と関連していないのではないかと。そもそも道の駅を整備することを雇用者数で測っていいのか。

また、道の駅の定番メニューを定着させた方がよいのではないかと。いかがか。

(応答) 池田商工観光課長：当初、戦略を策定時には、雇用者数ありきということで雇用者数を KPI とさせていただいた。今後、新たに KPI を設定する際には参考にさせていただきたい。

なお、道の駅のレストランメニューについては、まちづくり株式会社と相談していきたい。

(質疑②) B 委員：物販だけで1日何人働いているのか。

(応答) 池田商工観光課長：道の駅内の業務と兼務している方もおり、全体でフォローできるような職場体制にしている。実績値である37人の雇用体制が適切かということについては、検証していきたい。

(意見) B 委員：月曜日から金曜日までに働いている方の人数や忙しい時間帯を明確にしていけばいいのではないかと。いろいろなソフトウェアを活用し37人が適切なか測った方がよいと思う。

【採決結果】総合評価：◎

《内訳》◎15人、○0人、△1人、×1人 (採決に参加していない委員有)

(2) ■基本的施策名：(1-2-2) 羽咋駅周辺整備による「まちなか」の賑わい創出

□具体的な施策名：羽咋駅周辺の整備

(質疑①) I 委員：KPI が羽咋駅の乗降者数になっているが、乗降者数だけでなくもっと幅広い指標で測った方がよいのではないかと。

(応答) 中島都市づくり推進室長：KPI を見直します。当初戦略を策定した際は、賑わい交流拠点づくりという構想がなく、商店街の活性化と駅前周辺の活性化をテーマにしていたので、適切な KPI だと考えていた。

(質疑②) B 委員：金沢駅から乗車する人を増やさないといけない。そのためには、まず、市内の観光施設の充実に取り組まなければ、KPI を達成できないと思う。電車や羽咋駅がなくなったらどうなるのか。コロナ禍後や羽咋駅自体が無くなる可能性も見据えて考えてい

く必要があると考える。

(応答) 中島都市づくり推進室長：コロナ禍後も見据えて、新しい生活様式も考慮し、整備を進めていきたい。

(質疑③) M 委員：羽咋高校の生徒数が減っている。また、無人化の話もある羽咋駅の維持をどうするか。市としてどのようにして、人口を維持するか考えていくべきと思う。

(応答) 中島都市づくり推進室長：ものをつくるという視点だけでなく、各課と連携して話を進めていきたい。

【採決結果】総合評価：○

《内訳》◎0人、○14人、△1人、×1人(採決に参加していない委員有)

(3) ■基本的施策名：(2-2-3) 魅力あふれる観光情報の発信

□具体的な施策名：観光資源の発掘、磨き上げの促進

(質疑①) B 委員：㈱日本旅行と市が協定を締結したことによってどのような効果があるのか。また、日本旅行に対して市から支出があるのか。

峨山道トレイルラン開催時に、市内の民宿業者については、㈱日本旅行と提携していなかったため、クーポンとしての取扱いができず、民宿の利用促進につながらなかったこともあり、㈱日本旅行との連携だけにこだわらない方がよいと思うが、いかがか。

(応答) 池田商工観光課長：㈱日本旅行との提携については、地方創生のプロジェクトとして、羽咋市と協定を結んでいる。旅行に係る業務の全てを任せるのではなく、市と連携してできることに協力していただいている。例えば、観光パンフレットに市の情報を載せてもらい紹介していただいているが、掲載料は払っていない。

(質疑②) B 委員：㈱日本旅行に対価を支払っていないのか。

(応答) 池田商工観光課長：市と合同で企画したイベント等は委託しているが、観光旅行業務を請け負ってもらっているわけではないのでご理解願いたい。

(意見) B 委員：今の時代、旅行代理店より広告代理店の方がいいと思う。いろいろなアイデアを持っているアドバイザーを呼ぶのもいいかもしれない。㈱日本旅行だけにこだわるとリスクがあると思うので考えていただきたいと思う。

(質疑③) M 委員：羽咋市の歴史は面白く、魅力もあると思うが、羽咋市はストーリー付けが弱いのが残念だと感じている。西日本から来る人にとってみれば、京都に類似の文化財があるので、わざわざ道の駅から15分もかけて永光寺や妙成寺へ行かないと思う。もし、観光につなげるのであれば、ストーリー付けがあるような工夫をした方がよいと思う。

(応答) 池田商工観光課長：歴史上の人物の紹介を取り入れるなど、ストーリーを結び付け

た施設の紹介を考えていきたい。

【採決結果】総合評価：◎

《内訳》◎14人、○2人、△0人、×1人（採決に参加していない委員有）

(4) ■基本的施策名：(3-1-1) 結婚を希望する若者への支援

□具体的な施策名：出会いの場の創出支援

(意見) B 委員：婚活事業については、若い方や職員の意見を取り入れた方がよいと思う。

(質疑①) K 委員：婚活イベントの PR は、どのようにされているのか。

(応答) 奥健康福祉課長：婚活イベントについては委託しており、TV やポスターを作成して PR している。

(質疑②) G 委員：今は、仲介者の紹介より、友達の紹介による出会いの方が多と思う。結婚相談員を育成することより、若い人が企画を行ってもよいと思う。

(質疑③) T 委員：若い人は婚活イベントがあっても恥ずかしがって参加しない人が多いので、これだけお金をかける必要があるのか。羽咋市だけでなく金沢市などと連携し、取り組んでもよいと思う。

(応答) 奥健康福祉課長：婚活イベントでは、対象年齢を設け、結婚したいが出会いの場が少ないような方へ出会いの場を設ける趣旨であり、費用だけでは割り切れないところもあるので、ご理解いただきたい。

【採決結果】総合評価：○

《内訳》◎0人、○9人、△8人、×1人（採決に参加していない委員有）

(5) ■基本的施策名：(3-2-3) 子育てと仕事の両立支援、女性の活躍の場の創出

□具体的な施策名：保育ニーズに対応した保育所運営

(応答) 特段の質疑応答なし

【採決結果】総合評価：◎

《内訳》◎17人、○0人、△0人、×0人（採決に参加していない委員有）

(6) ■ 基本的施策名：(4-1-1) 住環境の整備推進

□ 具体的な施策名：若者の移住・定住の促進を図る宅地供給の推進

(質疑①) C 委員：本市は、結婚を機にかほく市へ行き住宅を取得する人が多い傾向がある。人生のイベントの中で住宅取得は重要なので、その面を手厚くするとよいと思う。

(応答) 金山地域整備課長：羽咋市でも分譲地で家を建てる転入者の方には最大で 300 万円の助成金補助が対象になるので、この制度をより PR していきたいと思う。また、市外からの転入者の半数以上は、分譲地に入居していることから、これまでの PR 効果については一定程度あったと考えている。

(質疑②) B 委員：コロナ禍をチャンスと捉え、5G をできるだけ早く整備して、空き家も活用すればいいと思う。

(応答) 金山地域整備課長：他の市町が行ってないことを取り入れれば、都会から人を呼び込むきっかけになると思うので、参考にしたい。

(質疑③) M 委員：なぜ、羽咋市ではなく他の市町で住宅を取得したのかなど、分析することも大事だと思う。

(応答) 金山地域整備課長：分譲地で家を購入した人や住まいづくり奨励金の対象者にはアンケートを行っているので、アンケート結果等を参考にしながら、今後につなげていきたい。

【採決結果】総合評価：◎

《内訳》◎17人、○0人、△0人、×0人（採決に参加していない委員有）

(7) ■ 基本的施策名：(4-7-1) 近隣自治体、能登地域、広域地域等との連携・協力

□ 具体的な施策名：千里浜なぎさドライブウェイ保全のための国県等との連携・協力、支援

(質疑①) B 委員：賛否両論あると思うが、「あと何年で千里浜が走れなくなるか」のカウントダウンを行えば、人々の千里浜保全への意識が高まり、市内の人や県外の人からも寄附が集まると思う。

(応答) 地域整備課長：千里浜なぎさドライブウェイについては、昔は砂浜がなくなると言われていたが、対策を行い少しずつ元に戻っているように見える。近年、悪天候が多くなってきたが、大雨や防風でも通行規制がかからないようにできたらよいと考えている。

(質疑②) B 委員：国や県に頼らずに支援してもらうクラウドファンディングを取り入れてみるのも面白いと思う。

(質疑③) L 委員：KPI（国県等と連動した保全・継承事業数）が施策の目的と関連してい

ないのではないか。例えば、工事等といったハード面での効果で測った方がよいと思う。

(応答) 地域整備課長：工事等のハード面については、県が実施しているので、市としては要望活動が中心になっている。この施策については、羽咋市と宝達志水町と石川県と連携して事業の継続を行っていくということを意図しているが、KPI については、改めて考えていきたい。

(意見) M 委員：(質疑②) のように市が県に要望するだけでなく、寄附を集めて人工リーフを設置すれば効果があると思う。

【採決結果】総合評価：○

《内訳》◎2人、○15人、△0人、×0人（採決に参加していない委員有）

※重点審査7施策以外の残り94施策を一括審議

重点審査を行った7施策の総合評価結果を除いた残りの94施策の総合評価については、資料1に記載してある、2019年度の総合評価 有識者会議審査結果案のとおりとして承諾された。

8. 講評

(1) オブザーバー：北陸財務局 手持 佳也 検査監理官

羽咋市さんをお願いさせていただきたいと思います。事務局からの説明にもあったのですが新型コロナ関係についてのことです。私も行政機関の者ですから、同じような発想になると思うのですが、どうしても大人数を集めるイベントはやりにくい状況になっていると思います。また、後ろ倒しになってしまっている事業もあると思います。ただ、地方創生や背景にある人口減少などは、時間との戦いの部分もあるものですから、いつの間にか手遅れになってしまっているということがないように、できること、例えば今までのやり方を変えて取り組んでみるなど、先程のご意見の中にもありましたがオンラインを活用するなど、できることを少しずつ進めていただく必要があるのかと思います。当然実施しているかと思いますが、あえて申し上げさせていただきました。

(2) オブザーバー：石川県中能登総合事務所 綿木 浩三 所長

本日はお疲れさまです。今日の会議により、評価結果(案)から一部、最終結果として変更があった施策がありましたが、平成30年度の評価と令和元年度の評価で◎と○の数だけで比べると、目標3と4の施策については、◎と○の数が平成30年度結果からプラス3。一方で、目標1と2の施策については、△の合計が倍の3つから6つに増えておりまし

た。結果として、私は目標 3 と 4 の評価が上がったというふうに見ております。この目標 3 と 4 は地域へ働きかける施策ですから、市民の方の暮らしやすさを充実させる施策が主になると思っています。ですから、この評価が若干高まったということは、市民の福祉に対する結果がプラスになったのではないかなと捉えております。ということは、市外に出る方が少なくなるような効果があったのではないかと思います。

逆に、目標 1 と 2 の◎と○が減っているということであれば、これはどちらかといえば、地域の外に働きかける施策、人や企業を呼び込むことが中心でありますので、その評価が落ちたということは先程の説明にもありましたけれども、令和元年度からコロナの流行もありましたし、その前に豚熱に関する報告もありましたので、そういったことが悪い影響につながったのかと思います。また、外に働きかける施策ですので、周りの環境の影響をまともに受けやすい部分があるのかと思います。

第 1 期の戦略が昨年度で終わって、今年度から第 2 期の戦略が始まっているということで、これからもコロナの状況が続いていくと思いますので、「新型コロナウイルスが社会にもたらす変化」、これを事務局の方は注視されているとは思いますが、第 2 期の戦略に基づく施策をその中でどう展開していくかということに関しましては、戦略自体の見直しも迫られる可能性も出てくると思います。先程、委員の方からも意見がありましたが、新型コロナウイルスが地方にとって決して悪いことばかりではないのかということに注視していき、施策を見直して対応していくことが大事ではないかと思いました。

(3) アドバイザー：国立大学法人金沢大学 高山 純一 名誉教授

全体として第一期の目標に比べて人口がかなり加速度的に減っていて残念です。特に、社人研の推定値よりも 40 人程度減っていることがショックでした。このままいくとさらに加速するという危険性があるので、十分この原因を追究することが大事だと思います。出生率そのものは変わっていませんが、若い女性が減った分だけトータルとして生まれる数が減っていることが資料からみてとれる。今のところ死亡者も横ばいだが、5 年、10 年して団塊世代の方々が高齢者に入ってくると、どうしても死亡者が増えてくる可能性があります。やっぱり市や地域が努力して人口減少を食い止める手立ては、社会増減の是非にかかっていると思います。

どれだけ域外から羽咋市に来てもらえるか、あるいは市内の人が外に出るのを抑えるかが大事。その一つとして住宅地を開発して住んでもらうことが必要です。ただ、それでも域外から来てくれるかは難しく、市内の世帯分離が進むということも当然ありえますので、そのバランスは考えなくてはなりません。他の市町との助成金の比較についての件もありましたが、住む場所を選ぶときには、これまでは職場・育児教育・住環境を考えて選んできましたが、これからは新型コロナにより、インターネットを使ったテレワーク環境によって職場通勤の在り方も変わると思います。そのため、三井委員の意見と同じく 5G の整備事業を取り組むことも重要な視点だと思います。通信会社 4 社とうまく連携して進めてほしい。

ただ、人口 2 万人の市が、通信会社と単独で交渉するのは現実的に難しいので、羽咋郡市や能登地域として広域で交渉することを戦略として考える余地はあると思います。

また、千里浜なぎさドライブウェイを維持することは、羽咋市だけでなく、日本が世界に誇れる 1 つの資産を守ることにつながると思います。そういう意味では、羽咋市だけでは弱いのでクラウドファンディングなど、県と相談して進めるのも一つだと思います。そうすれば、国内だけでなく、全世界からファンが集まる可能性はあります。どれくらい PR するかもよりますが、一つの考え方として可能性はあります。ふるさと納税を上手く行った自治体とそうでないところがあるように、上手く使えば可能性はあります。何よりも PR・宣伝を上手く使えるかがこれからの命に関わる。すべて PR 次第です。そこにあまり資金をかけずに今まで取り組んできたと思います。情報発信をいかに上手にするかをもっと考え、これからは資金を投入して効果を見るということも大事だと思います。

もちろん、資金だけでなくアイデアも必要です。ある市では、市の職員がユーチューバーになっているような情報発信を行っており、そういうことが得意な若い職員や観光協会と連携することでもっと PR することが大事だと考えています。

(4) アドバイザー：国立大学法人金沢大学先端科学・社会共創推進機構 平子 紘平 特任助教

羽咋市の戦略会議は皆さん、ちゃんと意見を言っていて素晴らしい。ただ、発言していない方もいらっしゃると思うので、次回からでも、一人一言は意見を言うようにしていただくとよと思います。

では、3 点お話したいと思います。

一つ目は、重点施策の観光資源について、「資源として UFO を活用すれば未確認ゆえ経費がかからない」という意見は面白いと思いました。グーグルで羽咋市の観光地を検索すると、コスモアイルの評価は、妙成寺よりも高く、千里浜に続いて 2 番目となっているので、実際コアなファンも多いのではないかと思います。そのため、もっと UFO を資源として活用すればいいのではないかと思います。

二つ目は婚活について、南砺市では、2011 年から婚活支援係を設置し、現在までで 137 組の成婚につなげ、そこから 56 人の子どもが生まれています。近くの地域でこのように成果実績を挙げている事例をもっとマネしてはどうかと思います。

三つ目は移住定住について、個々の実績値は上がっていて評価も◎で素晴らしいと思いますが、大きな流れでみると社会動態の人数が減ってしまっています。その原因究明の方法として、金沢市では、転入・転出の際になぜ来たか、なぜ出ていくのかアンケートを書いています。どんな理由かは、転出した人に聞いてみて初めて分かることもあります。ただし、追跡調査をするとなると郵便代がかかりますが、そういった手法を羽咋市でも検討してみてもいいと思います。

私は、いろんな自治体の人口移動を見させてもらっていますが、金沢市でさえ純日本人の

人口は減り始めています。そのため、金沢市も単体で考察するのをやめ、「5市2町の主要都市圏で考えましょう」という話になっています。金沢市の通勤・通学の圏域はでき上がっていますが、金沢市だけでなく周りの市町からのひとの動きの影響を大きく受けています。「まち・ひと・しごと」ということは、住んでいるところとしごとは、同じ市町である必要はないと思います。やはり、羽咋市だけでは限界がありますので、単体で戦略を展開していく必要はないのではないかと考えます。

羽咋市がどの市町とつながるのがよいか、調査等を行わなければ分かりませんが、しごとと住む場所をもう少し広く考えて攻めていくのも有りなのかと思います。地域おこし協力隊の方や自然栽培に関する技術者の育成に係る施策は、目標値を達成していますので、少なくとも、都会の方から見て羽咋市は「面白い」という認知度は高まっていると思います。

しごとに関しては良いとがった戦略をしているので、金沢で住んで羽咋市で働いてもらうなど、「まち・ひと・しごと」をバラバラに考えずに関連付けて考える議論があっても良いのではないかと考えます。

9 その他（事務連絡等）

事務局から今回の会議結果等を効果検証報告書として取りまとめ、10月中旬に市長へ提言することを周知。

10. 閉会